

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	91	実施計画番号	26
事務事業名	寺子屋稲生塾	事業開始年度	平成22年度
担当課名	スポーツ・生涯学習課	事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等		関連事務事業	
背景や経緯等	市長公約の事業であり、子どもを取り巻く環境が大きく変化している中、三本木原開拓や新渡戸稲造の功績等の郷土学習によって、ふるさとに対する認識を高める必要がある。さらに、地域の人々とのふれあいを通して、世界を見通すことのできる人材を育成する必要がある。		
事務事業の目的	新渡戸稲造の「武士道」に関連した学びや体験を通して、子どもたちに道徳心・規範意識や郷土愛を育み、次代を担う人づくりを目指す。		
実施状況	小学校4年生から6年生を対象に、全6回のプログラムを新渡戸記念館と連携して実施している。		

【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	70	75	80
	人件費(千円)	2,520	2,700	2,880
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

	24年度実績	25年度実績	26年度計画
事業費合計(千円)	367	433	612
うち一般財源	367	433	612
うち国県支出金			
うち地方債			
うちその他			

【指標】

活動指標	活動指標名①					
	計算式等	単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画	
		日	7	7	7	
	活動指標名②					
成果指標	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
		人	目標値	200	200	200
			実績値	272	271	
			達成度(%)	136%	136%	
	成果指標名②					
	計算式等	単位	24年度	25年度	26年度	
			目標値			
		実績値				
		達成度(%)				

十和田市事務事業評価シート

整理No	91
計画No	26

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 子どもたちの育成を地域社会とともに取り組むことは、地域の活性化が図られ十分に妥当性がある。
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	成果向上の余地 1 / 6 参加人数の1/3がリピーターであり、活動内容には満足感があると考えられる。しかし、プログラムによっては、参加人数が少ないものがあるため内容や時期を見直す必要がある。
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1		
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 講師を招聘したり市民の協力者を募ったりしながら、事業を展開しており、事業費削減の余地はないと考える。
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 0 / 4 講師、協力者は必要性に応じて招聘している。また、参加者には材料費の負担だけであり、公平性は保たれている。
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
			現在の適性	19 / 20	改善の余地	1 / 20

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **有効性を改善して継続**

<p>方向性の理由</p> <p>寺子屋稲生塾は、今年度で5年目の事業となるため、市内小学校へは浸透してきた。しかし、地域への周知が浸透してきているとはいえない状況にある。地域社会でも、子どもたちの育成を目指すためには、この事業は継続の必要性があり、予算の範囲内で現状のまま継続したい。</p> <p>今後の具体的な取組方策と狙う効果</p> <p>十和田市開拓の歴史を学びながら、現在の十和田市の魅力やこれからの発展を考えさせる事業を展開する。また、多くの地域の人々と関わりながら地域で子どもたちを育てるようなプログラムに取り組む。</p>
